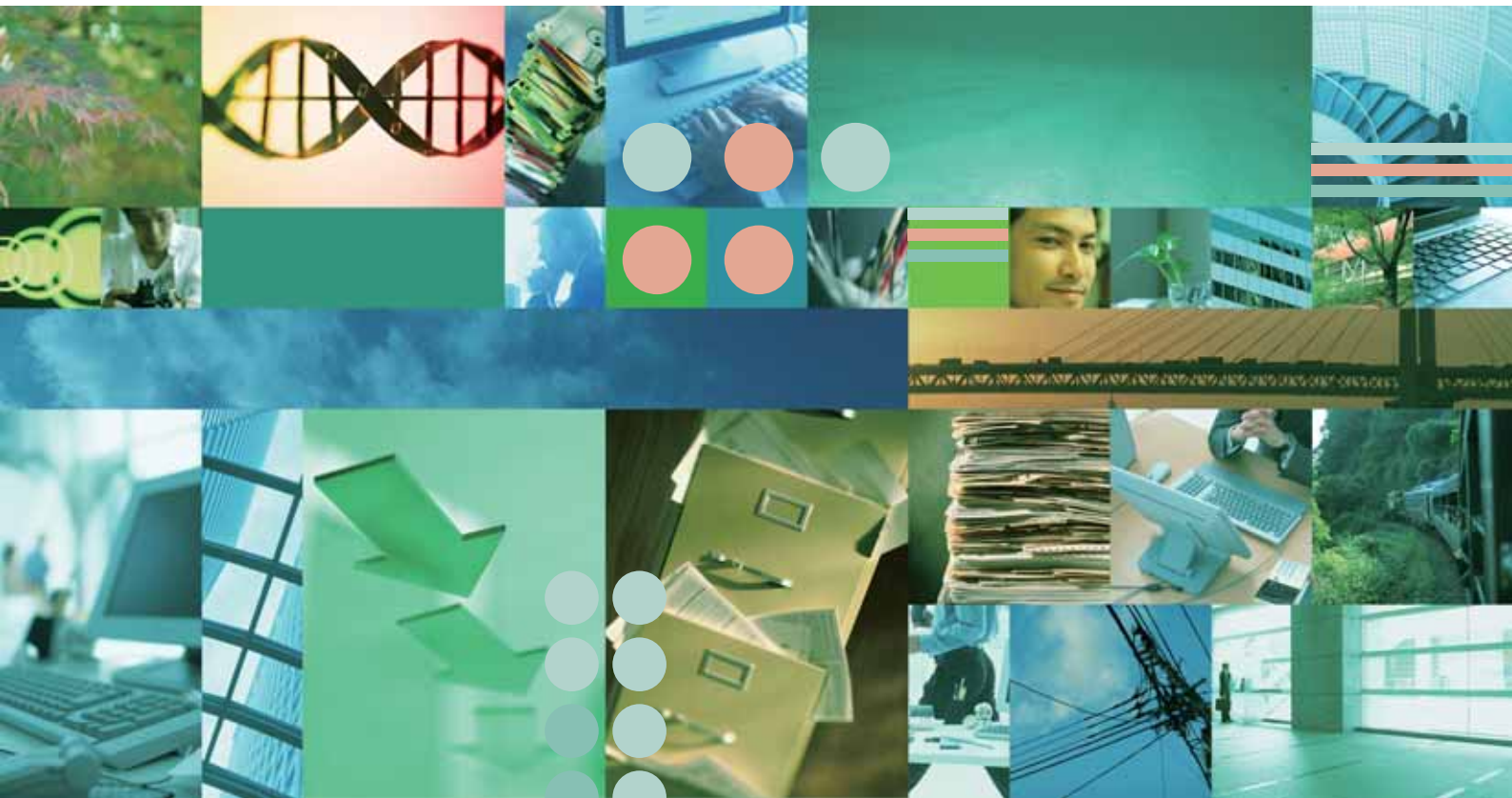






IBMが提案する Excelレガシー・ソリューションなら、 これまでの業務はそのままに、 データのさらなる活用、再利用を実現します。

業務画面の構築やデータ集計・分析、
開発プラットフォーム制作など、さまざまな場面で利用されるExcel。
しかし、肥大化、老朽化している上、当時の開発担当者が不在ということも少なくありません。
これら、Excelレガシーの問題を解決し、適正に再利用することは、
業務の無駄を省き、さらなる効率化への近道となります。
データベースとサーバーの豊富なノウハウを持つIBMだからこそ提案できるソリューションです。

CONTENTS

Excelレガシーとは

はじめに	04
課題	06
レガシーとの付き合い方	07

レガシー問題の解決法

レガシーは生まれ変わる	08
製品試験成績書	09
スプレッドシート統制	10
営業データ	11
環境情報データ	12
製品仕様書	13
コンテンツ管理	14
規定集・マニュアル	15
業界標準	16

導入にあたって

導入パターン	17
ソリューション構成	18
クイック・スタート	19



レガシーの定義

直訳すると「遺産」ですが、情報システムの世界では「新しいものが出現したが、長年使われてきたために、いろいろな事情で完全に捨てることができない古い技術や仕様」を示し、ネガティブな表現として用いられます。

Excelレガシーとは？

さまざまな業務で重要なアプリケーションとして利用されるExcel

Excelアプリケーションの多くは、非定型業務で利用されています。定型の基幹システムや業務システムに組み入れることが難しい「現場寄り」の仕組みが、大量にExcelで構築、利用されているのが現状です。

例えば、個々の企業が異なった会計システムを導入している企業グループの場合、Excelで連結決算を作成することが多々あります。この場合、最終的なデータ(決算情報)はもちろん重要視されますが、個々のデータにおける計算ロジックやプロセスは各担当者任せで、全社的な管理が行われることはまれでした。

しかし、近年内部統制が注目される中、いわゆる「スプレッドシート統制」を無視することはできない状況となっています。

また、Excelアプリケーションが長期的に多数開発され、その開発担当者が異動、または退職することによりブラック・ボックス化した、「便利な」Excelアプリケーションが企業内に多数存在する結果となっています。

レガシーとさえ認識されていないWord

実際には契約書、規定集、マニュアル、製品仕様書など、Wordファイルとして存在する資産はどの企業にもあります。これらのデータは印刷され、承認印が押されて初めて管理の対象となることもあり、作成されたまま担当者のPCやファイル・サーバーに蓄積され、いつまでもそこに居座る存在になっています。

つまり、原本であるWordファイルは再利用されず、“触らなくてもよいもの”という意味でレガシー化されています。



企業における内部統制への対応や非定型業務にかかわるデータの再利用が重要性を増す中、Excel/Wordファイル、いわゆる「レガシー」の再生を検討する必要があるのではないのでしょうか。

そうはいつでも便利なツール

これらのファイルは確かにレガシーです。しかし、Excel/Word自体やその資産を否定しているわけではありません。

Excelは、業務担当者にとって優れた業務ツールであり、IT部門に

とって優れた開発プラットフォームでもあります。今後も継続して利用されていくことでしょう。

Excel遺産「レガシー」を企業資産として再利用

Before

潜在リスク

Excelと関数・マクロを使い、各業務部門が開発したシステムを会社として管理できていない。

運用、保守コスト増

増え続ける管理や集計業務、システム変更時における煩雑なマクロの保守業務によるコスト増。

慣れたツールへの依存

エンドユーザーは使い慣れたExcel/Wordから離れられず、新しいシステムの利用に消極的。

After

統制、統合

利用しているExcelはそのままに、必要なデータだけを抽出し、思いのままに管理。

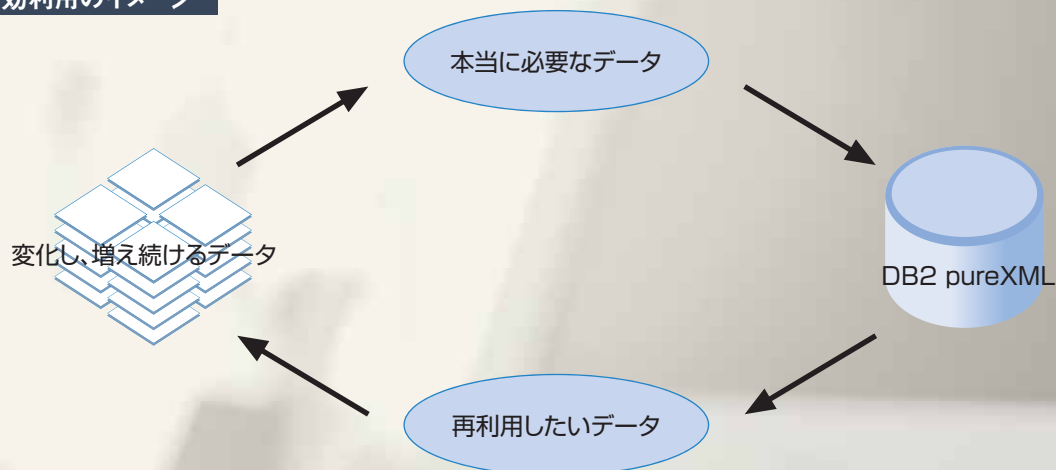
ExcelでSOA

変更し続けるExcelデータを柔軟かつ低コストで全社システムと連携でき、集計・管理業務が飛躍的に向上。

スムーズな移行

エンドユーザーに対して特別な操作教育は必要なく、新システムの導入教育コストも削減。

レガシー有効利用のイメージ



では、具体的な解決すべき課題とは何なのでしょうか

解決したい課題のパターン

Excel/Wordレガシーが業務の障害となりうる代表的な例は、以下の3パターンです。

Excelの場合

(1) ブラック・ボックス型【開発した本人以外は手がつけられない】

集計、報告用のExcelアプリケーションに改善を重ねた結果、便利なアプリケーションにはなっても、ブラック・ボックスと化してしまい、「開発した本人」以外は触れないシートになります。いわゆる「お化けExcel」が存在しているケースです。

例

- 関数、VBAで作り込んだ複雑なロジックが組み込まれているため、開発担当者以外は誰もメンテナンスできない。
- 社内で「Excelの達人」に後継者がいないため、不便や問題を感じながらも誰も手が付けられない。

(2) 現場システム依存型【全社的なコントロールがされていない】

会計、財務に関連するデータの集計・算出ワークフローにExcelが組み込まれていても、そのロジック(計算式、マクロ)の管理や監査は実施されていないため、「Excel=リスクの温床」となっているケースです。

例

- スプレッドシート統制(内部統制)の対象になっているが、管理しきれていない。
- 手作業によるデータ作成のため、Excelデータの妥当性が保障できない。

Wordの場合

(3) ワープロ志向型【文書ファイルの扱いが進歩していない】

古くからWordファイルが紙印刷工程の中間ツールとして位置付けられているため、Wordファイル内のデータを何らかの形で再利用したり、変換したりする必要があるとしても、手作業以外の方法が見つからないケースです。

例

- 過去のWordドキュメントはファイル・サーバーに大量に保管されているが、廃棄の基準もなく、また再利用の目処も立っていないため、作られたときのままだになっている。
- 仕様書などのドキュメントから他の業務(DB登録、カタログ作成など)に必要な箇所を手作業(コピー&ペースト)で抽出している。効率が悪いが、他に方法がないのであきらめている。
- ドキュメント管理ソフトを入れたが、結局は全文検索機能を利用するだけで業務改善にはつながっていない(時間をかけて探すぐらいなら新しく作成する場合もある)。

こうした課題にはどのような対応ができるのでしょうか

レガシーを有効利用するアプローチの最新動向

Excelレガシー対処法

(1) BIツールの導入

企業内外のデータ集計、分析などのアプリケーション・ロジックをBIツールに移植。

メリット

- ・Excelファイルの計算式やマクロなどに伴うメンテナンス上の危険性を回避できる。
- ・最近のBIツールにはExcel連携のオプション機能が付いているものもあり、2次加工などには、使い慣れたExcelをそのまま利用できる。

デメリット

- ・高額、高機能なツールが多く、個々の部門や中小企業にとっては導入障壁が高い。

(2) Web化

ExcelデータをRDBに格納し、Excelと類似した親しみやすいユーザー・インターフェースを使ってWebシステム化。

メリット

- ・リッチ・クライアント技術によりExcelからの移植がスムーズに行える。
- ・Excelと同様な画面をブラウザ経由で表示、利用できる。

デメリット

- ・分析・集計ロジックをクライアントからサーバー側に移行しただけなので、ロジック自体の解析までには至らず、ブラック・ボックス化という問題は解決されていない。

Wordレガシーの再利用方法

(3) 文書の部品化

再利用を実現したい代表例としてが挙げられるのは、規定集やマニュアルなどの作成・メンテナンス。

Wordのプラグインを開発する方法もありますが、Word以外の特定業務専用のソフトウェア(エディター)を導入するパターンが一般的です。専用エディターの機能で文書構造を分解し、DBに格納することで、WebやPDFなどマルチ出力が可能なシステムを実現します。

メリット

- ・文書を構造単位で管理することが可能になる。

デメリット

- ・DTP(Desktop Publishing)アプリケーションや専用エディターを導入した場合、高度なユーザー教育なしには、エンドユーザーが上手く使いこなせない場合も多い。

しかし、上記のアプローチは全てのお客様に最適な解決方法ではありません

次のページから、画期的な解決方法をご紹介します

Excel/Word業務はそのままだに データのさらなる活用、再利用を実現

みなさまが使いなれたExcel/Wordを利用しながら業務/部門システムを作り上げる仕組みをご紹介します。

ユース・ケース

製品試験成績書

製品テスト、基礎研究情報…
→ 部署を横断するプロジェクトでExcelを利用するケース

09
ページ

スプレッドシート統制

IT内部統制、財務報告書…
→ 財務報告プロセスに Excel を利用しているケース

10
ページ

営業データ

売上、予実績、案件管理…
→ 個人、ファイル・サーバーにExcelが散在するケース

11
ページ

環境情報

CO₂排出データ、製品含有化学物質管理、RoHS、REACH などの規制対応
→ 環境DBの構築が必要なケース

12
ページ

製品仕様書

メーカー技術文書、試作品仕様書、購入仕様書…
→ 設計情報がWordで作成されているケース

13
ページ

コンテンツ管理

商品企画書、売込み情報、カタログ情報…
→ Web製品カタログのCMSのデータ管理が必要なケース

14
ページ

規定集/マニュアル

社内規定集、業務マニュアル…
→ Word文書をXMLでデータ化するケース

15
ページ

業界標準

電子商取引、人材管理、財務諸表…
→ 業界標準XMLデータへの対応が必要なケース

16
ページ

お客様のテーマに該当するユース・ケースをご覧ください

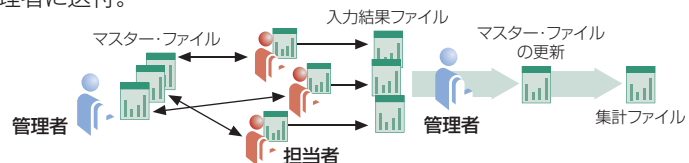
製造業対象

製品テスト
基礎研究データ
プロジェクト

製品試験成績書データ管理ソリューション

現状は…

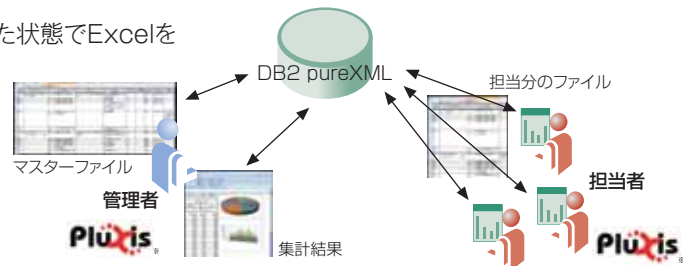
- ・管理者はExcelで試験項目のマスター・ファイルを作成し、担当を割り振って各担当者にファイルを配布。
- ・担当者は複数のExcelシートにテスト結果を入力し、管理者に送付。
- ・管理者は戻ってきた複数のExcelファイルを集約し、結果表を作成。



任意の「Excel」を配信し、自動集計を実現

製造業における製品の品質、安全基準はより厳しさを増している状況でありながら、その製品試験データの管理は旧来のみではありませんか？

- ・研究部門、設計部門、品質管理部門、製造、製品テスト部門など複数の部署や拠点で、統一的なテスト成績データ管理システムを構築するのは困難な故にExcelでデータ管理を行っている企業は数多く存在します。
- ・このソリューションでは管理部門がExcelで追加・修正したテスト項目が即時にDBに適応されます。
- ・またデータを入力する担当者は必要なデータが抽出された状態でExcelを利用することができ、クライアントPCで作業をした後はそのままDBを更新できます。
- ・管理項目変更への追従を短期間・最小コストで実現できるシステム・アーキテクチャーです。



Before

テスト項目設定

製品毎に管理項目や管理単位が異なるため、フォーマットがバラバラ。

結果入力

自分の担当実験が複数のファイルに分かれているため、入力作業に時間がかかる。

集計

複数のファイルを統合し、集計を行うが、入力ミスがあれば手直しして再集計が必要。さらに現場で追加された項目を統合できない場合も多い。

After

DBでマスターを作成するため、テストを行う部署ごと、ステップごとに必要な項目を抽出して項目設定が可能になる。

自分の担当分のみ、条件を指定してダウンロードしたExcelに結果を入力、アップロード。アップロードの際にマスターが必要としているデータ形式でのエラー・チェックも可能。

手作業による膨大な集計時間をリアルタイムに集計することが可能。集計データはExcelファイルなので、データやグラフの修正も思いのまま。

※Pluxis(ブラクシス)は株式会社アドスの製品です。Microsoft® Officeを入力フロントエンドに、効率よく、的確に「欲しいデータを欲しい形」で集め、複数のデータ形式への変換を実現するツールです。

複数の「Excel」利用プロジェクトを管理可能

財務・経理対象

IT内部統制
EUC(エンドユーザーコンピューティング)
財務報告書

スプレッドシート統制ソリューション

現状は…

- ・会計システムから必要なデータをいったんExcelなどに取り込み、Excelのマクロなどを使って計算した後、また会計システムにその結果を入力。
- ・財務報告にExcelを利用している場合は日本版SOX法のIT統制対象。
- ・日本公認会計士協会が2007年10月24日に公表したガイドラインには「決算・財務報告プロセス」においてスプレッドシートが使用されている場合は対策が必要であることが明記。

参考:「監査・保証実務委員会報告第82号「財務報告に係る内部統制の監査に関する実務上の取扱い」の公表について本文」

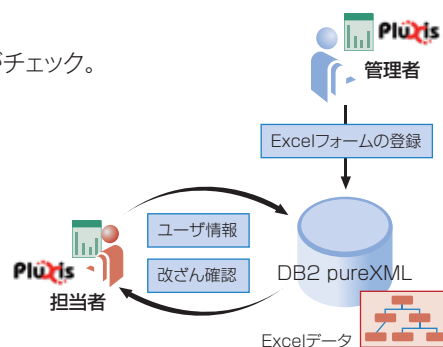
Excelの利便性を損なうことなく統制を実現

財務報告のプロセスで利用されているExcelの処理が正しいことを証明するには以下のアプローチが必要です

- ①処理内容を明示した文書の作成。
- ②アクセス管理を実施し、権限を持つ者以外の利用を拒否。
- ③計算式、マクロを利用している場合はその変更履歴を残す。
- ④マクロ変更時には、変更後も正しい結果が得られるということを第三者がチェック。

・スプレッドシート統制の対策として必要以上のアクセスを管理するのは、ユーザーの利便性を損なうと同時に統制運用費用がかさむ原因ともなります。

・既存のExcelデータを活かしながらDBと連携できるフレームワークを採用することで、管理対象のExcelが変更されていく過程でも無理のない対応ができます。



Before

現行調査

スプレッドシートのマクロ、計算式等の検証が適切になされていない場合、手計算で確かめる等の代替的な手段が必要。

妥当性検証

Excelを使用して財務報告の基礎資料を作成している場合、マクロや計算式等の検証が必要。

アクセス権管理

スプレッドシートに対するアクセス制御、変更管理、バックアップ等の対応についての検証が必要。

After

対策は業務フローを文書化するところから開始。RCM(リスク・コントロール・マトリックス)のExcelデータの管理も対応可能。

Excel Checkerプラグインを利用し、マクロや計算式などが含まれているかをチェック。レポートの作成も可能。

ユーザー管理はもちろんのこと、Excelファイル自体をそのままDBへ格納可能。Excelのように項目が更新されるデータもDB2 pureXMLで対応。

「Excelレガシー」はそのままに統制への対応が可能

全業種対象

受注データ処理
営業データ集計
売上データの見える化

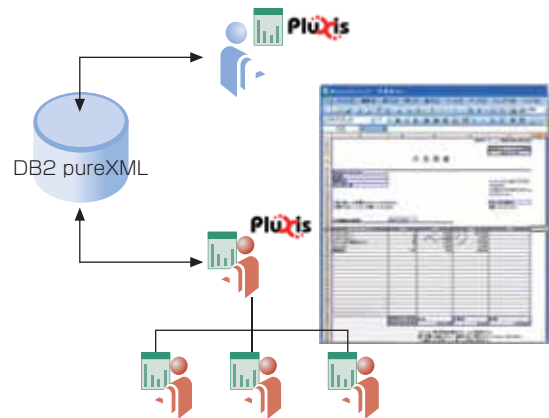
売上・営業データ集計ソリューション

現状は…

- ・複数の受注データ経路(EDI、Web-EDI、Mail+Excel、FAX)があり、基幹システム(DB)へ登録するために一度Excelへ記載し、マクロ・プログラムによってデータを変換。
- ・売上集計はアシスタント主導で作業をしているため、時間・手間がかかる。
- ・Webブラウザーによるデータ入力支援システムの導入を検討しているが、大量のデータや繰返し項目の多い業務には向いていない。
- ・個々の営業スタッフはExcelを利用しているため、基幹システムや報告用Excelに対し二重入力が発生。

現場Excelを容易に全社データに活かす

- ・営業担当者もアシスタント・オペレーターもExcelは使い慣れています。また客先からもExcelデータで需要予測や注文データが届きますが、これらのExcelデータを活かして売上の計上処理を自動化することが可能です。
- ・集計されたデータの“見える化”により、Excelでの再表示やブラウザーでの閲覧、他のBIツールとの連携といった拡張も容易に実現可能になります。



Before

手作業

売上関連データの集計は手作業中心。また、マクロ計算に依存しており、第3者によるメンテナンスも困難な状態にある。

導入教育

Webによる売上データ集計がスタンダードだと思っていたが、ツールの操作を覚えるコストも無視できない。

コンプライアンス

Excel+マクロで構成された集計用ファイルはメンテナンスが大変。さらに内部統制対策としてリスクが多い仕組みだと分かっているが、対策が取られていない。

After

Excel/Wordのデータ集計、データ変換、ファイル出力、DB連携まで全てPluxisで実現可能。

現状のExcelフォームをそのまま活用。現場作業者はExcel/Wordになれているので教育コストの低減も可能。

マクロを使わないデータ変換方法の確立。また、マクロや計算式が改ざんされていないか、外部からのチェックが可能。

「Excel/Wordレガシー」がそのまま全社データへ

製造業全般

(電子部品・化学・素材メーカー)対象

REACH対策

CO₂排出データ集計

製品含有化学物質管理

取引先とのデータ連携

環境情報伝達・管理ソリューション

現状は…

- ・製品含有化学物質のデータはExcelで管理されているが、社内報告や取引先への提出フォームはバラバラでシステム化されていない。
- ・各工場、拠点からのデータはExcelをメールに添付させて収集。
- ・環境情報用のデータベースは統一されていない。
- ・取引先への製品含有化学物質データの報告は複数のExcelフォーム(独自形式、JGPSSI、JAMA シート、RosettaNetなど)があるが、手作業で入力するしかない。

製品含有化学物質情報伝達・管理ソリューション

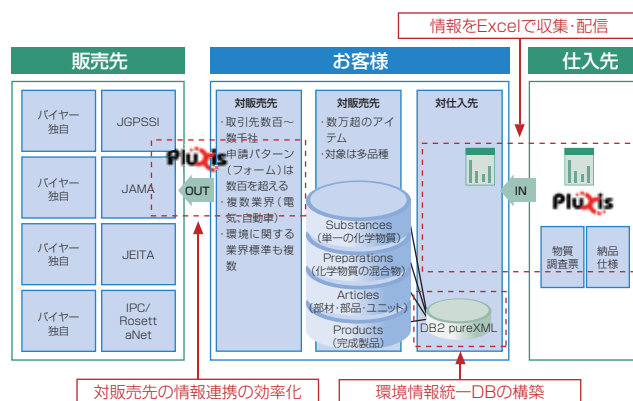
Excelによる入力フロントとDB2 pureXMLの採用により低予算でスタートしながら将来的に業務変更への対応が容易な仕組みを構築できます。

■ Excelの利用例

- ・均質素材単位の含有化学物質情報をExcelとDBに連動しながら管理できます。
- ・顧客品質基準の閾値による判定する仕組みをExcelで作ることができます。
- ・取引先への環境情報シートへの入力をDBと連動したい、また出力するファイル形式も複数あるのでシステム化することができます。

■ Wordの利用例

- ・納入仕様書の既存データをDB化できます。
- ・製品仕様書から含有化学物質情報だけを自動抽出できます。



対販売先の情報連携の効率化

環境情報統一DBの構築

Before

入力作業の増加

取引先に提出するファイルのほとんどがExcel。その種類は膨大な数に及び、データ入力業務は増加し続ける。

システム化に着手できない

管理すべき対象物質や法規制の方向性が定まらない状況では要件定義もできない。

コンプライアンス対応

製品含有化学物質の情報は機密扱いや、間違いのない高い精度の情報を扱うため、セキュリティが心配。

After

ワンソース(DB、Excelがマスター)マルチユース(取引先別の提出フォーマット自動出力)の仕組みづくりができる。

業務ではExcel/Wordを活用しながら、システム側ではそのデータ構造や項目の変更に柔軟に対応できる新しい情報システムを構築可能。

データは標準化されたXMLデータで管理。また、Pluxisによってデータ作成者の個別認識も可能。

「Excel/Wordレガシー」はそのまま環境情報伝達インフラへ

製造業対象

製品仕様書
研究レポート
部品表

製品仕様書／商品企画書(技術文書)ソリューション

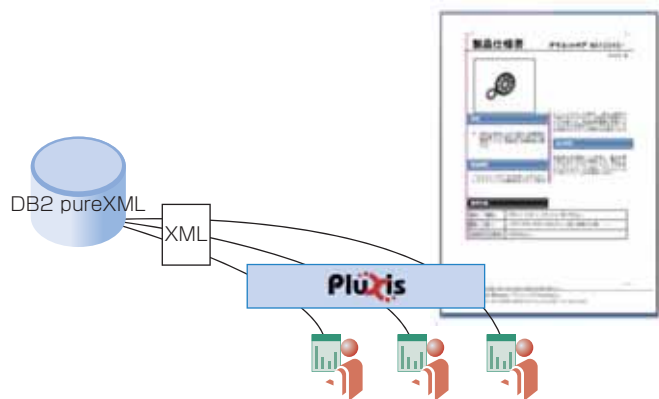
現状は…

- ・設計者が試作品開発における技術文書(製品仕様書)をWordで作成、管理。
- ・営業、企画、マーケティング担当者は、Excelで社内や顧客に紹介する商品企画書を作成。
- ・仕様書、企画書は最終的には全社の製品DB(部品DB、カタログDB)に登録するため、Excel/Wordの該当箇所(スペック・データなど)を手作業でコピー、ペーストといった転記作業が必要。

技術文書再利用の仕組みを容易に実現

「使い慣れたExcel/Wordはそのままに構造変更型データを上手く扱う」ことが可能です。

- ・Pluxisを利用することで、「既存データをDB化したい」「再利用したい」「必要な項目だけ自動抽出して集計したい」「DBと仕様書データ項目を連携させたい」といったことが容易に実現できます。
- ・またデータ・ファイルとデータ構造定義はXMLファイル化されているので、他のアプリケーションとの連携も可能です。



Before

手作業

仕様書と基幹システム(DB、マスター)への二重登録により作業工数が増加している。

導入教育

ドキュメント・ツール自体の変更も検討したが、新しいツールの操作を覚えるコストも無視できない。

過去データ

仕様書をカテゴリーやシリーズごとに分類したり、テンプレート化したりすることは可能だが、共有データとして再利用できる状態になっていない。

After

任意のデータを取り出してファイル変換、DBへの登録作業を一度に行うことが可能。

現状のExcelフォームをそのまま活用。現場作業者はExcel/Wordになれているので教育コストの低減が可能。

現在膨大なファイルとして保管してあるExcel/Wordの仕様書データを一括して抽出、DB登録することも可能。

「Excel/Word レガシー」を技術文書プラットフォームへ

コンテンツ管理
ご担当者対象カタログ情報
商品企画
CMS連携

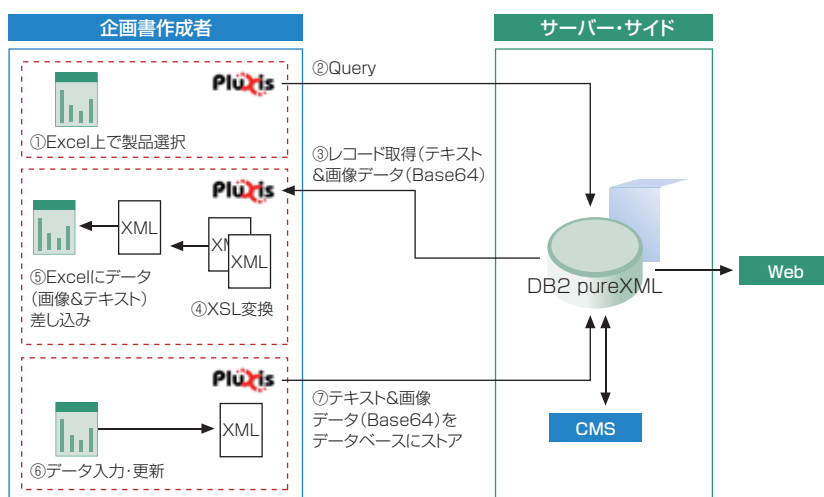
Webコンテンツ登録支援ソリューション

現状は…

- ・Webカタログや紙カタログのコンテンツをExcelで作成し、データベースに登録。
- ・基幹システムや業務システムなどの既存データベースにはWeb公開に必要なデータがないため、データを手作業で作成。
- ・営業、企画、マーケティング担当者各個人がExcelでデータを保持しているため、専門の担当者でなくても簡単にデータベースやCMS(コンテンツ・マネジメント・システム)にデータを登録できる仕組みが必要。

CMSとExcelの絶妙なコラボレーション

- ・使い慣れたExcel/Wordから誰でもコンテンツ登録が可能です。
- ・Web公開用データの一部は既存データベースにないことも多く、手作業でデータを作成、メンテナンスする必要があります。
- ・公開後のデータ管理は、CMS側でも可能ですが、Pluxisを利用することで、Excelで作成したデータをダイレクトにデータベース登録することが可能です。



Before

手作業

Excelで作成し、CMS、もしくはデータベースへ再登録する重複作業が発生するため非効率。

導入教育

CMSをコンテンツ作成担当者(営業、マーケティング、企画)に使わせるのは心配。

過去データ

Web公開用のデータの中には営業・マーケティング担当者がExcel形式で持っているデータもあり、これらを何とか活用したい。

After

Excelから任意のデータを取り出してデータ変換し、DBへの登録作業を一度に行うことが可能。

現状のExcelフォームをそのまま活用。現場作業者はExcel/Wordになれているので教育コストも低減可能。

膨大なファイルとして保管してあるExcel/Wordのデータを一括してDB(XML DBもお勧め)に抽出、登録することも可能。

「Excel/Wordレガシー」から簡単にコンテンツ登録

金融機関・
製造業対象

規定集
約款
業務マニュアル

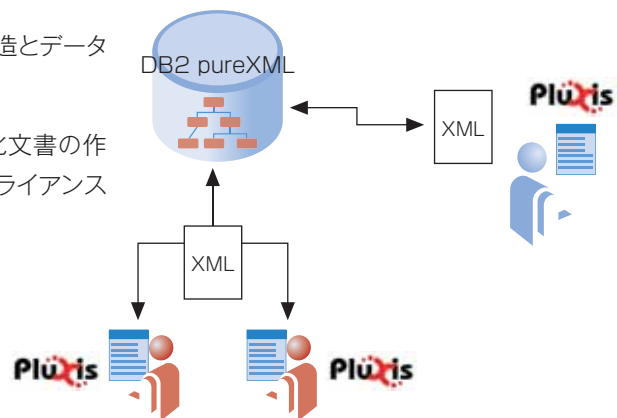
規定集・約款・マニュアル管理ソリューション

現状は…

- ・規定集や約款、業務マニュアルなど構造化されたドキュメントの版管理やコンテンツ管理はXMLを意識する必要がある専用ツールで運用。
- ・内部統制の運用が拡大し、特定の社員だけでなく他部門、支社などでも利用する必要性が発生。
- ・専用ツールの使用を担当者に強いことは難しく、たとえ専用ツールを導入できたとしても、高い教育コストが課題。

構造化文書の管理フローにWordを組み込む

- ・規定集などの構造化された文書の管理に、使い慣れたWordを組み込むことが可能です。
- ・Pluxisを利用することで、Wordファイル内の任意の文書構造とデータベースや管理システムの柔軟な連携を実現します。
- ・通常であれば、専用ドキュメント・ツールを必要とする構造化文書の作成、編集にWordを使うことができ、教育コストを抑え、コンプライアンス対応の拡大にも柔軟に対応することが可能です。



Before

手作業

元データをWordで作成した後、専用ドキュメント・ツールに転記して登録しており、二重の作業が非効率。

導入教育

専用ドキュメント・ツールの操作を各担当者に覚えさせるための教育コストは無視できない。

過去データ

ファイル・サーバー上の管理のみで共有しており、データとして再利用できる状態ではない。

After

Word内の任意のデータを取り出してデータを変換、DBへの登録作業を一度に行うことが可能。

現状のExcelフォームをそのまま活用。現場作業者はExcel/Wordになれているので教育コストも低減可能。

膨大なファイルとして保管してあるExcel/Wordファイルを一括抽出し、DB登録することが可能。

「Excel/Wordレガシー」で構造化文書を管理

全業種対象

XML-EDI標準
XBRL(財務諸表)
HR-XML(人材情報)

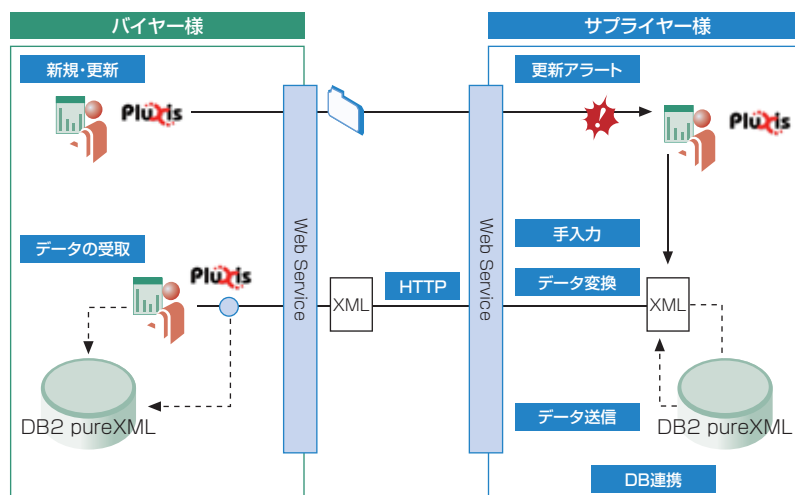
データ標準化対応ソリューション

現状は…

- ・XBRL、ebXML、RosettaNet、TravelXMLなど、各業界標準化団体が定める企業間データ交換標準が多数存在。
- ・通常は、各標準に対応した専用ツールを導入しているが、専用ツールには高額なものや運用に専門技術者が必要なものも多い。
- ・一部企業の利用だけでは標準化の意味が半減するため、中小企業対策が必要。

標準対応を容易に実現

- ・使い慣れたExcel/Wordを入力フロントに、標準化(XML)されたデータを有効に扱うことが可能です。
- ・Pluxisを利用することで、高価な専用ツールを導入することなく、Excel/Wordで標準化データを容易に扱うことが可能です。
- ・また、データ変換エンジンも標準で装備しているため、基幹システムなどの他のアプリケーションとの連携も実現できます。



Before

導入コスト

高価な専用ツールを導入することができない。



After

既存のExcel/WordとPluxisで安価に対応可能。

運用コスト

XMLや標準自体の理解が難しいが、専門の技術者を置くことができない。



現状のフォームをそのまま活用でき、入力担当者はXMLなどの難解な仕様を意識することなく運用が可能。

システム連携

基幹システムなどの社内システムと業界標準データと連携させるには、データ変換ツールが別途必要。



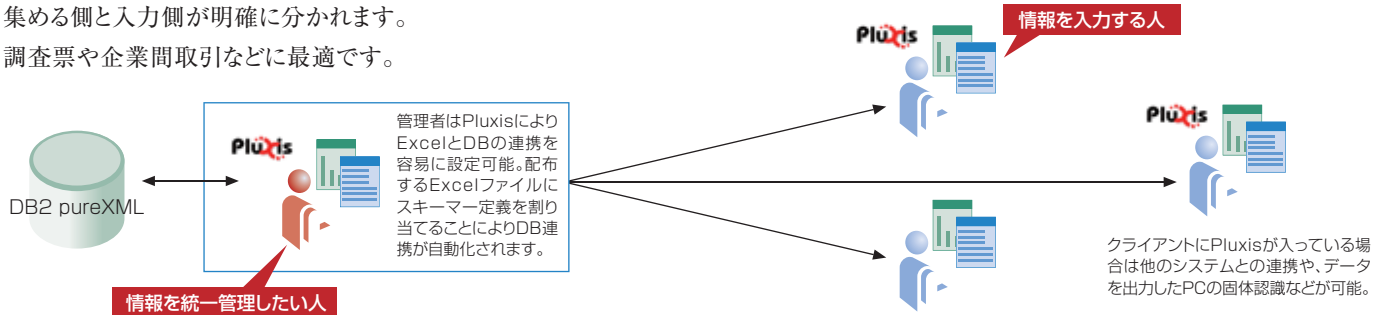
データ変換エンジンも標準装備されており、既存システムとの連携もスムーズに実現。

「Excel/Wordレガシー」で企業間データ交換を実現

アンケート・集計

画一的なExcelをフォームとして配布し、必要なデータだけを集めるパターン

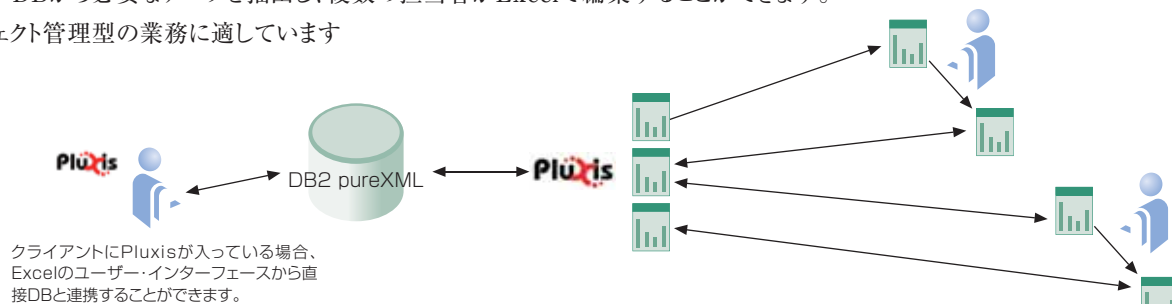
- ・Excelのデザイン(データ項目)は固定です。
- ・集める側と入力側が明確に分かれます。
- ・調査票や企業間取引などに最適です。



DBフロント

DBからExcelを生成、Excelで編集、DBへ格納、この繰り返しのパターン

- ・既存のExcelファイルがマスター化されていれば、DBに移行することができます。
- ・マスターDBから必要なデータを抽出し、複数の担当者がExcelで編集することができます。
- ・プロジェクト管理型の業務に適しています

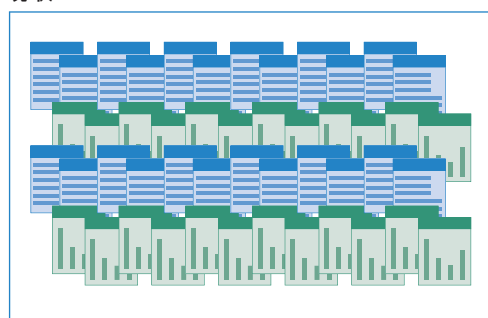


資産ファイルのデータ化

過去のExcel/WordファイルをとにかくDB化することで再利用可能にするパターン

- ・既存ファイルをDB化し、さらに必要なデータをDBからExcel/Wordに戻すことができます。
- ・DB化した後は、Web化や他のアプリケーションとの連携を容易に実現できます。

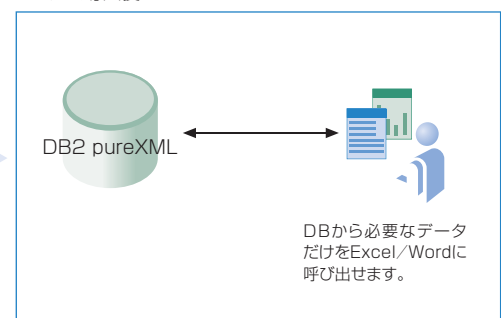
現状



Pluxis

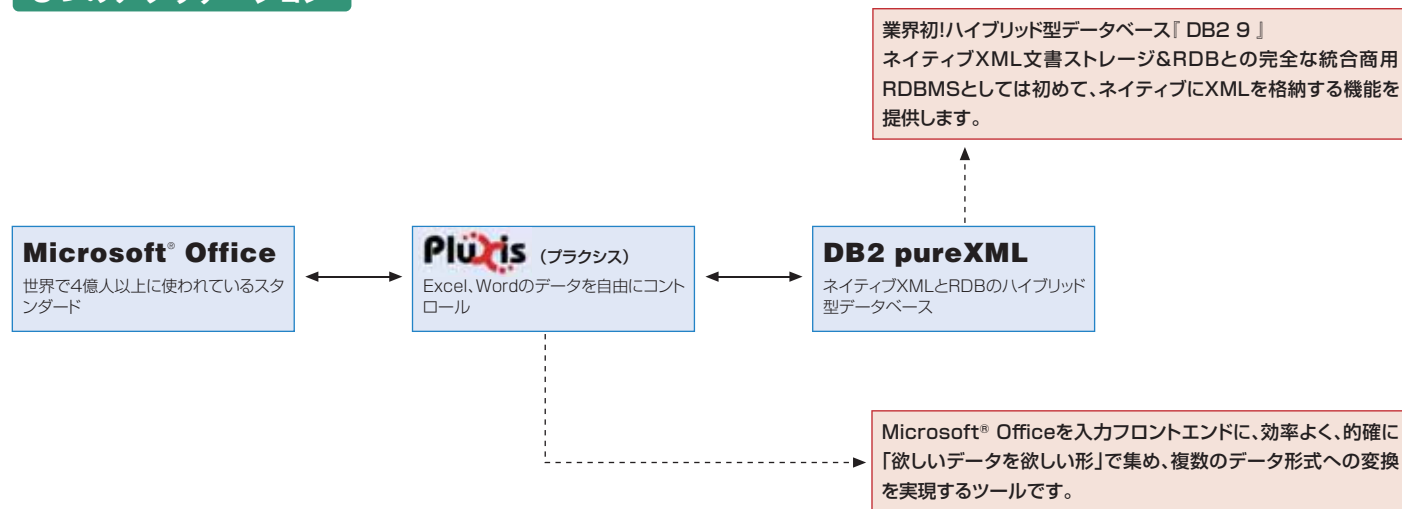
Excel、Wordファイルのデータ項目を整理、テンプレート処理を実行し、任意のDBにデータを格納します。

システム導入後



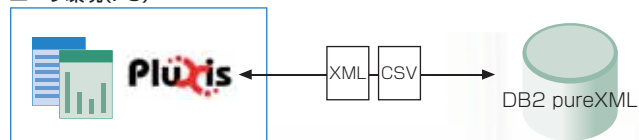
業種を問わずさまざまなケースでの利用が可能

3つのアプリケーション



クライアント処理パターン

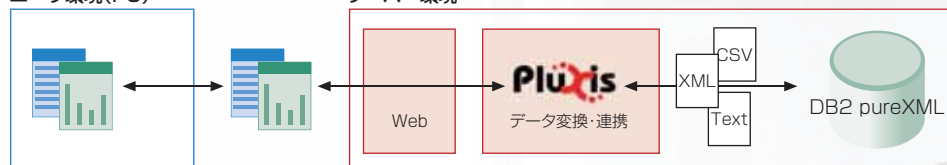
ユーザ環境(PC)



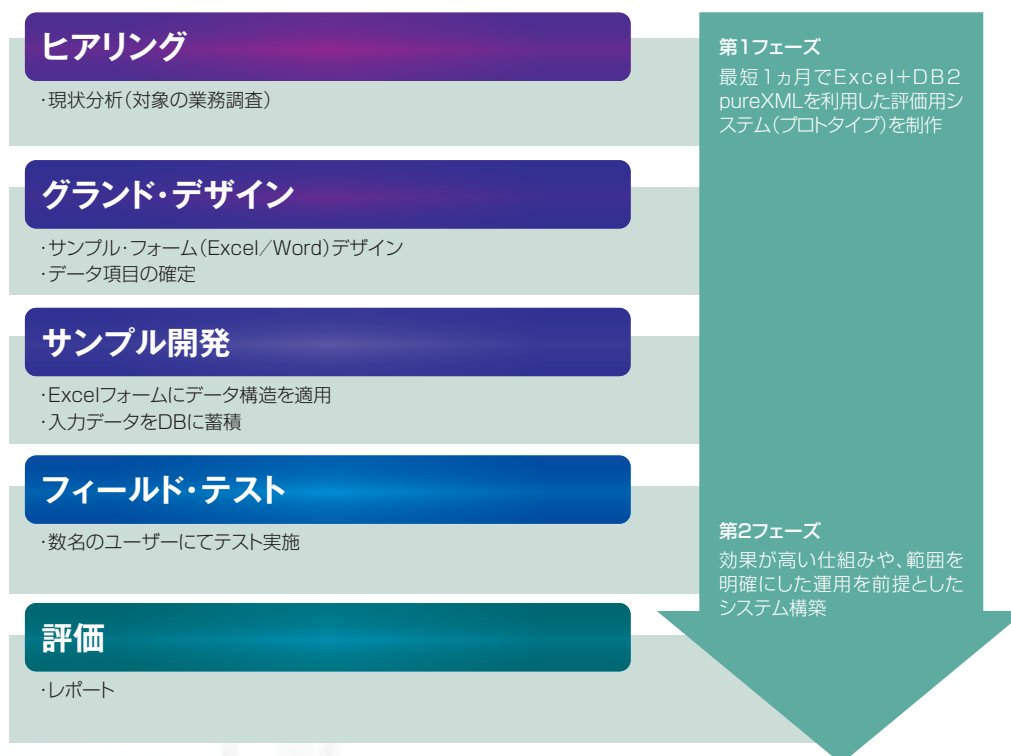
サーバー処理パターン

ユーザ環境(PC)

サーバー環境



お客様の予算に合わせてスモールスタートができますのでご相談ください。



お問い合わせ、ご相談は下記までお願いいたします。

日本アイ・ビー・エム株式会社

ダイヤルIBM:0120-04-1992 e-Mail: purexml@jp.ibm.com

IBM、IBM(ロゴ)、DB2、pureXMLは、IBM Corporationの商標。
Microsoft、Windows、Excel、Word、VBA、は米国およびその他の国における米国Microsoft Corp.の登録商標。
RosettaNet、ロゼッタネットは、非営利団体であるロゼッタネットの商標または登録商標。
XBRLは、XBRL Internationalの商標であり、そのホスト組織である
American Institute of Certified Public Accountantsが登録・保有している。
他の会社名、製品名、サービス名等は、それぞれ各社の商標または登録商標。

お問合せは、弊社営業担当員、専用メール窓口 (purexml@jp.ibm.com) または、
ダイヤルIBM (0120-04-1992) へ。

受付時間は:月～金9:00-18:00(祝日、12月30日～1月3日を除く)。

携帯電話でおかけのお客様は下記の電話番号をご利用ください。

ダイヤルIBM:03-6220-8002(この場合通話料はお客様のご負担となります。)

お問い合わせの際は「Excelレガシー」の件とお申しつけください。



日本アイ・ビー・エム株式会社

〒106-8711 東京都港区六本木3-2-12
01-08 Printed in Japan

掲載された製品は、すべての障害、不測の事態を未然に防げるものではありません。
掲載された情報は、2008年1月現在のものです。事前の予告なく変更する場合があります。